



NTTコムウェア

NTT COMWARE CORPORATION
CSR REPORT 2019



お客さまと新たな価値を「協創」し、 持続可能な社会の実現に貢献する

～協創型イノベーションで未来を創る～

ビジネスインテグレーターとして、 お客さまとともに社会的課題の解決をめざす

近年、情報通信分野では、AI（人工知能）・ビッグデータ、IoTなどの新たな技術の急速な進展により、さまざまなデジタルサービスの利用が進み、これらサービスの利用にともない蓄積されたデータの分析・活用により、生活の利便性や各産業における生産性向上など、幅広い分野での新たな価値の創造やサービスの提供が期待されています。一方、気候変動にともなう自然災害の増加、国内で進む少子高齢化にともなう労働人口減少やインフラの老朽化など、深刻な社会的課題が顕在化する中、持続可能な社会の実現を共通目標とするSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みが自治体・企業・NGOなどあらゆるセクターで加速しています。

NTTコムウェアグループも、いつでも・どこでも、24時間365日お客さまをつなぐ通信を提供し続けるNTTグループのIT部門として、その技術力とノウハウを活かし、自らのDX（デジタルトランスフォーメーション）による変革を実践しつつ、ビジネスインテグレーターとして、お客さまのDXを推進することにより、社会的課題の解決に挑戦しています。

本報告書では、その具体的な事例として、画像認識AI「DeepTector[®]」の活用例やドローン運用ポータル「ドロポ[®]」などと組み合わせた社会インフラメンテナンスについて、ご紹介しています。お客さまのビジネスと私たちのサービス・技術の「協創」により、今後も新たな価値を創造し、多様な社会的課題の解決に果敢に挑戦していきます。

事業活動を通じて、SDGsの達成に貢献する

私たちは、これまでコンプライアンス・環境・人権啓発を事業活動の基盤と位置づけ、毎月29日をNTTコムウェアグループの「CSRの日」と定め、社内での情報発信などを継続してきました。近年、企業に対する「社会性」と「事業性」の両立（CSV）への要請の高まりとともに、私たちのCSRの概念もCSVを含むものとして変化しています。2015年に国連が採択したSDGsについても、企業の主体的な取り組みが広がっており、私たちも、2016年のNTTグループとして賛同の表明に伴い、2017年「NTTコムウェアグループCSR活動指針」の改定を行い、あわせてCSRの4つのテーマとSDGsを関連づけし、テーマごとに設定する経営指標（KPI）「CSR定量指標・目標」の見直しを図りました。以降、PDCAを回しながら事業とSDGsの連動を強めるべく取り組みを促進しています。



最後に

本報告書は、ステークホルダーの皆さまに私たちの活動をわかりやすくご紹介する「ハイライト版」と、詳細な取り組み状況を掲載する「詳細版」で構成されています。ぜひご一読いただき、引き続き、NTTコムウェアグループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NTTコムウェア株式会社
代表取締役社長

宋島 聡

ICTが日常生活に浸透する中、NTTコムウェアのサービス・ソリューションは、
社会のさまざまな場面で皆さまの「快適で安心な」生活を支えています。

OUR SERVICES AND SOLUTIONS

主なサービス・ソリューション

Deeptector[®]

深層学習 (Deep Learning) を利用した画像認識AIです。労働人口の減少で人材確保が困難になりつつある製造業の検品作業やインフラ構造物の点検作業などの分野で適用が進んでいます。

SmartCloud[®] DevaaS 2.0

ソフトウェア開発に必要な環境を、ロケーションフリーかつトータルに提供する開発環境クラウドサービスです。リリースサイクルの短縮化とソフトウェア開発の効率化を実現し、お客さまのDevOps導入・促進を柔軟かつ強かにサポートします。

SmartCloud[®] Phone

クラウド上で内線通話・代表番号着信・各種転送などのPBX機能を提供するサービスです。従来の固定内線電話だけでなく、スマートフォンを内線電話として利用することにより、在宅勤務やリモートワークにおけるコミュニケーション環境を提供します。

ヘルプデスクBOT

シャイン BOT シリーズ

問い合わせに対話形式で回答するチャットボットです。24時間365日「いつでも」「どこでも」「なんどでも」応対し、問い合わせの自己解決を促します。質問すればするほど早く回答にたどり着きやすくなります。

光BOX⁺ (EMS版)

Powered by NTT COMWARE (HB-2000/情報機器)

家庭内の電力使用量の見える化や、エアコンなどの家電機器をコントロールする機能などを備えたHEMSコントローラーです。自宅のテレビをスマートTV化し、動画・インターネットなどのエンターテインメントコンテンツもお楽しみいただけます。

ドロボ

機体や操縦士、撮影データなどドローンを活用する際に必要となる各種情報の管理を支援するサービスです。老朽化が進む一方、メンテナンスを担う労働力不足が課題になっているインフラ点検などの分野でのドローン活用をサポートします。

* 「Deeptector」、「SmartCloud (スマートクラウド)」、「SmartCloud」ロゴ、「DevaaS」、「シャイン」、「シャイン」ロゴ、「ドロボ」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

* 「光BOX」は、東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社の商標です。

* その他、記載されている社名、商品名などは各社の商標または登録商標である場合があります。

社会に貢献する私たちのCSR

CSR活動指針

NTTコムウェアは、持続可能な社会に貢献する企業グループであり続けるため、社会の変化を見据えつつ、多面的なCSR活動をグループ一体で展開しています。

またNTTグループがCSR憲章を改定したことを受けて、NTTコムウェアも2019年6月、活動指針を一部改定しました。

CSRメッセージ

私たちNTTコムウェアグループは、高い倫理観と技術力を持って最高のサービスと信頼を提供し、お客さまとのビジネス価値の協創を通じて、事業活動を通じた社会的課題の解決に取り組み、人と社会と地球がつながる安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献します。

CSRテーマ

関連するSDGs



人と社会のコミュニケーション

私たちは、社会の持続的発展のため、お客さまのデジタルトランスフォーメーションをサポートすることにより、現在生じている国内外のさまざまな社会的課題に加えて、今後の技術革新の結果もたらされる新たな社会的課題の解決にも取り組み、より豊かでスマートな社会の実現に貢献します。



人と地球のコミュニケーション

私たちは、NTTコムウェアグループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、さまざまな地球規模での環境問題の解決に努めます。



安心・安全なコミュニケーション

私たちは、社会を支え生活を守る重要なICTソリューションを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。



チームNTTのコミュニケーション

私たちは、“チームNTT”として心身ともに健康で、さまざまなパートナーの皆さまとともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努めて、豊かな地域社会づくりに貢献します。



より着実に、グローバルな視点で

私たちのCSR活動を支える2つの視点

常に社会の期待に対して目を向けつつ、企業グループとしての力を発揮するため、私たちのCSR活動は、2つの視点を重視して検討・実践しています。

NTTグループ一体でのCSRの推進

NTTグループは、「NTTグループCSR憲章」を基本として、社会的課題の解決を通じた持続的な成長の実現に努めています。

「NTTグループCSR憲章」は、グループのあり方を表現した「CSRメッセージ」と、具体的な重点取り組み項目を示した4つの「CSRテーマ」から構成されており、グループ一体となって取り組んでいます。

私たちが「NTTグループCSR憲章」に基づき、自らの事業活動に応じたCSR活動指針(前頁)を策定し、社会的課題の解決に取り組んでいます。

NTTグループCSR憲章



NTTグループCSR憲章: https://www.ntt.co.jp/csr/groupcsr/csr_policy.html

国連SDGsへの賛同と推進

2016年度、NTTグループは国連「持続可能な開発目標(SDGs*)」に賛同を表明しました。

これを受け、私たちも2016年度よりNTTグループの一員としてSDGsに貢献する取り組みを推進しています。

2017年にはCSRの4つのテーマとSDGsとの関連づけを行い、各ソリューションとSDGsの関連づけも積極的に行っています。こうしたさまざまな活動を通じて、SDGsの達成に向けて貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



* SDGs: Sustainable Development Goalsの略

より良い未来を、 絶え間ないイノベーションで

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



世界の人びとが、将来にわたり、先進的で快適な生活を送ることができる社会を。イノベーションの推進を通じ、誰もが享受できる、サステナブルでレジリエントな社会インフラを実現することはグローバルな課題です。とくに先進国の企業には、そのようなイノベーションのサイクルに積極的に貢献することが期待されています。

私たちのCSRテーマ①

人と社会のコミュニケーション

品質向上

ICTの利活用



CSの継続的向上

NTTコムウェアグループは、ICTが日常生活で担う役割の高まりを受け、社会の安定した発展に貢献するソリューションの開発や提供を重要なミッションと位置づけ、高い技術力と現場におけるノウハウの蓄積を続けてきました。また、お客さまに期待されるソリューションの大規模化と複雑化が進んでいる中、ソリューションや技術提供を通じ、高品質で信頼性の高いサービスを提供しています。

SDG9に貢献しうる、私たちの取り組みの例

- 画像認識AI「Deeptector®」による、経済活動の円滑化、社会的課題への対応
- 社会インフラである公共システムへの、先進技術の導入
- IoTによるヘルスケアやウェルネス推進

めざすのは、より便利で、快適な未来 — ICTの力で、社会のイノベーションを支える

Case 01

ものづくりの現場の社会的課題に貢献する「Deeptector®」

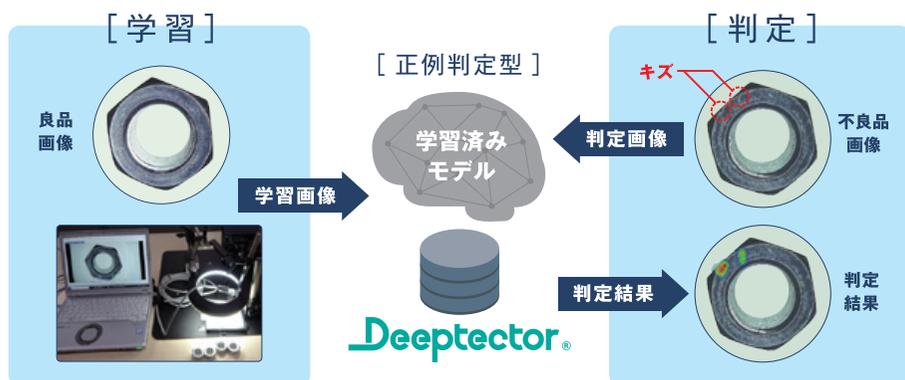
近年、ものづくりの現場では、デジタル技術を活用したイノベーションが急速に進んでいます。とくに先進国においては、少子高齢化や人口減少が社会的課題となっており、労働力不足への対応が重要度を増しています。

NTTコムウェアの「Deeptector®」は、深層学習(Deep Learning)を利用した画像認識AIです。検査・検品における人の「目」の代替として、作業員確保が困難になりつつある製造業の検品作業や、老朽化により保守点検需要が高まりつつあるインフラ構造物の点検作業などの分野で適用が進んでいます。

検査・検品における「Deeptector®」の活用では、多数の不良品画像を学習させ、トライアンドエラーで判定精度を高める「検出型」のほかに、少数の正常品画像だけを学習させることで、事前に想定できない不良も含め正常品以外のすべてを検出できる「正例判定型」を用意しています。「正例判定型」は、多品種少量生産や不良品の発生頻度が低い場合など、AI導入で必要となる不良品画像を用意できない製品への適用が期待されています。製造業においては、安定した生産体制を維持するため、従来の画像処理装置に代わるものとしてAI活用の機会が広がっています。

*「Deeptector®」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

「正例判定型」イメージ



Case 02

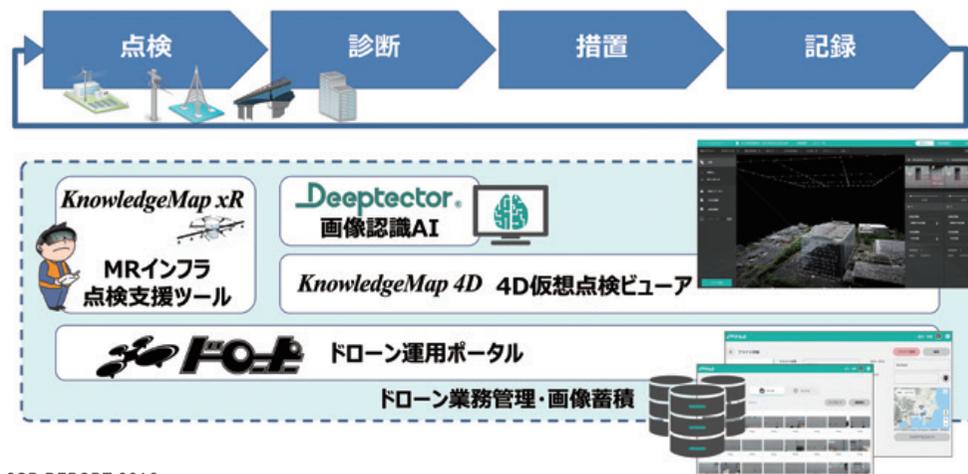
「ドロポ®」などドローン運用ソリューション群による社会インフラメンテナンス

NTTグループは、鉄塔や電柱などの膨大な通信インフラを保有しています。これらのメンテナンスを確実に実施し、高品質な通信サービスを維持・向上することは、NTTグループの重要な使命です。一方でインフラ設備の劣化状況の診断は、熟練技術者の経験やノウハウに頼る部分も多く、それらの伝承が課題であり、高所・閉所作業をとまなうことが多い。これら作業の遠隔化や機械化・自動化もまた社会的課題となっています。

NTTコムウェアは、通信設備など社会インフラの保守点検業務の効率化に向け、ドローンを活用する際に必要となる機体や操縦士・撮影データなどの各種情報を一元的に管理するポータルシステム「ドロポ®」、およびドローン航行による写真撮影やセンサーデータなどの取得情報を3Dモデル化し直感的な目視点検や診断・記録を可能とする「KnowledgeMap® 4D」を開発し、2018年度末より提供を開始しました。現在、「Deeptector®」などと組み合わせることで一層の活躍機会の拡大を図りつつある同ソリューション群を通じて、社会インフラ維持管理のデジタルトランスフォーメーションに貢献していきます。

*「ドロポ®」、「KnowledgeMap®」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

社会インフラのメンテナンスサイクルに即した、ドローン運用ソリューション群



温暖化問題に、 人類の力を結集すべきとき

13 気候変動に
具体的な対策を



地球温暖化問題は、人類共通の懸念事項ですが、現在なお有効な成果がもたらされていません。世界各地で続発する異常気象などを背景に、さらなる行動を求める社会の声は高まっています。ICT企業は業務の特性上、大規模に電力消費を行う必要があり、事業および製品サービスの低炭素化努力へと、厳しい目が向けられています。

私たちのCSRテーマ②

人と地球のコミュニケーション

低炭素社会

循環型社会



生物多様性

NTTコムウェアグループは、ICTリーディングカンパニーとして、「Green by ICT」を合言葉に、具体的な取り組み目標を設定し、自社ならびにお客さまの環境負荷低減に寄与する活動を継続しています。その活動は、低炭素社会の実現、循環型社会の形成、生物多様性の保全の3つの柱で活動していますが、中でも低炭素社会の実現については、NTTグループが定量目標を掲げグループ横断で積極的に取り組みを実践しています。

SDG13に貢献しうる、私たちの取り組みの例

- 環境性能に優れたデータセンターサービスの提供
- 低炭素化を推進するIoTソリューションの提供
- 自社の低炭素化の推進

託すのは、穏やかで豊かな地球 — 次世代を見据え、社会の低炭素化を進める

Case 03

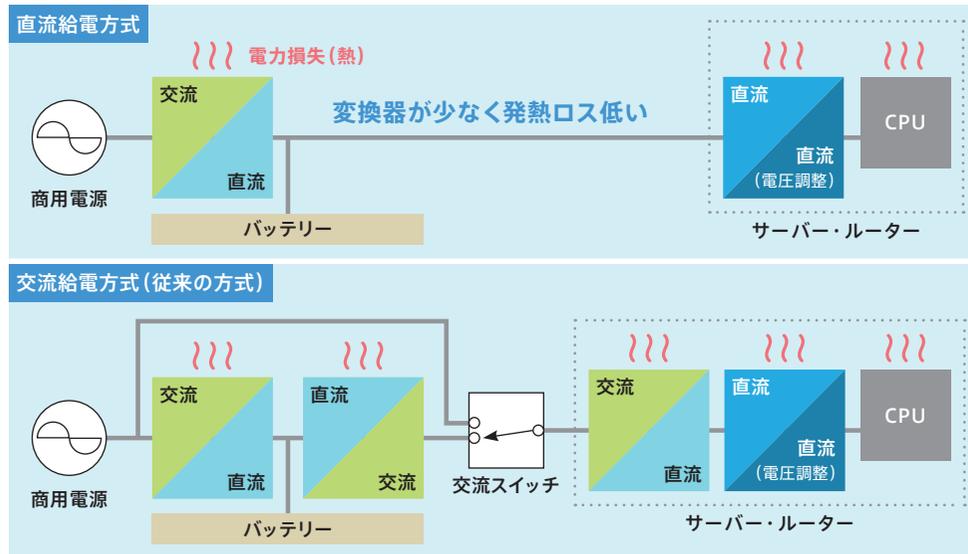
自社の環境負荷低減に向けた継続的な取り組み

NTTコムウェアグループでは、ICTによる環境負荷低減についてデータセンターとオフィスビルの双方で、積極的な取り組みを続けています。

2018年度は、データセンターの需要増にともなう設備の増設に対する省エネ施策として、高電圧直流給電(HVDC)システム導入や高効率空調設備への更改を積極的に行い地道な成果をあげています。HVDCシステムはICT施設の取り組むべき課題といえる給電設備における発熱ロス抑止に効果を発揮する技術であり、設備の新設・更新時に積極的に採用しています。またオフィスの省エネ施策として、省電力なシンクライアント端末を導入するとともに、LED照明を導入(LED化率:約86%)し、その調光機能を活用して照度の適正化を図りました。なお、LED導入と照度調整効果により約1.5%の省エネを達成しています。

これらの施策により、電力使用量は2018年度の目標(124.0百万kwh)を下回る114.6百万kwhを達成することができました。

直流給電方式と交流給電方式との比較



Case 04

各拠点で進む、身近なエコ施設緑化を通じた参画意識醸成

ヒートアイランド対策は、個人、法人を問わず、また組織の特徴を活かして工夫ができる身近なエコとして、日本でも幅広く浸透しています。NTTコムウェアグループも、屋上緑化や打ち水など各拠点での活動を実施してきました。とくに西日本支店の広島ビルは同活動に多くの有志が集い積極的に取り組んでおり、さつまいも、朝顔、サンパチエンスといった多様な植物の特性を活かしたきめ細かい屋上緑化、緑のカーテンづくりを実施しています。緑化エリアごとの定期的な温度計測を交え、年々その効果を改善しています。このような取り組みは地域でも高く評価されており、広島市主催の「平成30年度緑のカーテンコンクール」では最優秀賞として表彰されました。

これらの活動は社員一人ひとりの環境意識の醸成に大きく貢献しており、全員参加のCSRを推進する観点からも有意義なものであるとNTTコムウェアグループは考えています。引き続きグループ各拠点における社員参加型の環境保護活動を推進していきます。

屋上緑化、緑のカーテンと表彰状



先進的なインフラを、 サステナブルに

11 住み続けられる
まちづくりを



ICTの恩恵を受けたインフラの発展は、同時に新しい課題も私たちの社会に突き付けています。不慮の事故や悪意ある攻撃でデータセンターがダウンする、災害により通信ネットワークが遮断される、そういった事態を可能な限り回避し、「もしも」の際にも柔軟に復旧できる強靱なインフラづくりが求められるようになり、ICT企業の使命は重みを増しています。

私たちのCSRテーマ ③

安心・安全なコミュニケーション

安定性と信頼性

情報セキュリティー強化



セキュリティー人材の育成

ICT技術の進化にともない、経済性とどまらず、「安心・安全」を実現するための責任も増えています。NTTコムウェアグループは、情報インフラを提供するNTTグループの一員として、その円滑な運用・保守を実現する事業体制を整備しています。また、発生し続ける新たなセキュリティーリスクに対しても信頼性の高い技術を積極的に開発・展開しています。これからも、技術の進化を見据え、安定的で信頼性の高いサービス、そして自社のセキュリティーの両面から、社会に責任を果たします。

SDG11に貢献しうる、私たちの取り組みの例

- 堅牢性、セキュリティーに優れたデータセンターサービス
- 都市防災計画へ貢献するソリューション
- 公共や企業ネットワークのセキュリティー、保守サービス
- 自社のBCP、情報セキュリティーの徹底

今日も、明日も、見守り続ける — 社会インフラの安心と安全に、確かな価値を提供し続ける

Case
05

24時間365日 ICT社会をたゆまず支える「FSC24®」

「FSC24®」は、公共サービスやビジネスを“止めない”ために、情報・通信システムの運用・監視を担う、24時間365日のアウトソーシングサービスです。NTTコムウェアグループは、NTTグループを中心とする通信用の運用監視システムと情報システムの開発・運用に、長年の経験と実績を有しています。そのノウハウの凝縮ともいえる同サービスは、安定性が高く強靭（レジリエント）なシステム構築の支援にはじまり、その運用の受託、さらには最新の情勢を踏まえた改善提案まで、情報システムのライフサイクルすべてに寄り添ったサービスを提供しています。

ITサービス管理のベストプラクティスを集めた国際的な枠組みである「ITIL®」に準拠した業務管理手法を確立し、横断的な業務を統括的に指揮する責任者「FSC24オフィサー」があらゆる状況で適切な処置を講じる同サービスは、一般的な故障から災害による不具合まで、ICTインフラの稼働を守り続けています。2018年度は各地で地震や豪雨、大型台風などの自然災害が相次ぐ中、各地の拠点とともに通信システムなどの監視や早期復旧を支えました。

*「FSC24®」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

*「ITIL®」は、AXELOS Limitedの登録商標です。

FSC24®



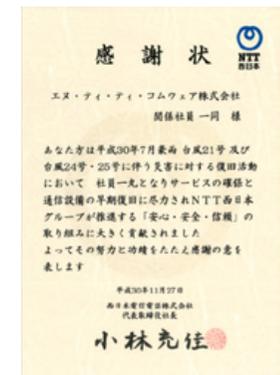
Case
06

自然災害が頻発した2018年 グループ横断で臨んだ、緊急対応と通信復旧

2018年度、日本では6月の大阪北部地震や9月の北海道胆振東部地震に加え西日本豪雨をはじめとして各地で地震や豪雨、大型台風などの自然災害が相次ぎ、国内の通信各社も施設に被害を受け、サービスに影響が出ました。このような状況に際し、NTTコムウェアは「FSC24®」を司令塔として、NTTグループと連携した対策を迅速に展開しました。大規模な災害発生時は、被災による影響調査、サービスおよび設備の復旧方法の確立、資材調達、現地対応など多数の課題を速やかに検討・実施しなくてはなりません。被災状況が刻々と変化する中、今後のリスクを綿密に予測し、グループ全体の連携のもとで、リソース確保と保守体制維持のための先手の対策を徹底したことにより、災害直後の通信サービス品質低下を極力回避すると同時に被災地域における復旧作業の早期着手を実現しました。また復旧作業中、水没した通信ビルを、被災現場の稼働を削減し短時間で確実に復旧する手順を提案し全国で初めて実施するなど、今後の現地作業の大幅な効率化・迅速化への備えを強化しました。

このような努力は通信サービスの早期復旧に貢献したとして高い評価を受け、2018年11月、NTT西日本グループ「KAIZEN推進大会」の席上、NTT西日本小林社長より感謝状を授与されました。

KAIZEN推進大会2018における感謝状授与式の模様



ジェンダーにかかわらず 自分らしく活動できる社会を



5 ジェンダー平等を
実現しよう



個人の属性によらず、能力を活かす機会を提供されている。ジェンダー平等社会の実現は、今や世界共通の問題意識です。残念ながら、日本は十分な成果が出せていない状態です。世界経済フォーラムが社会進出の男女格差を計測した「ジェンダーギャップ指数2018」によると、日本は149ヶ国中110位であり、さらなる取り組みが求められます。

私たちのCSRテーマ④

チームNTTのコミュニケーション

責任ある行動

多様性と機会均等



健康、安全衛生

社会貢献活動

NTTコムウェアグループは、持続可能な事業活動を通じてお客さまや社会の皆さまに信頼され続けるため、調和のとれた事業運営に取り組んでいます。法令遵守はもちろんのこと、ともに働く人の安全と健康や多様性の尊重、地域社会への貢献などを柱に据え、さまざまな活動を推進しています。これらの活動は「チームNTT」としてNTTグループ横断で取り組んでいる活動でもあります。中でも女性の活躍推進は現在注力している活動項目です。これからも、多様性が尊重され、皆が生き生きと暮らす社会の実現に向け、さらなる貢献を模索します。

SDG5に貢献しうる、私たちの取り組みの例

- 自社における女性活躍の促進、働き方改革
- 女性活躍に貢献するICTソリューションなどの提供

NTTコムウェアの女性活躍およびジェンダー平等推進施策

ジェンダー・ダイバーシティの実現に向けて考え、行動できる仕組みの実現をめざす。

ダイバーシティ推進の取り組み

NTTコムウェアグループでは、多様性の尊重を重要な経営戦略と位置づけ、性別、性的指向、性自認、年齢、障がいの有無などにかかわらず、多様な人材が活躍できるよう、意識改革および働きやすい職場づくりに取り組んでいます。



活動ハイライト ① LGBT等性的マイノリティへの取り組みの推進

NTTコムウェアグループでは、2016年4月より社内イントラサイトにLGBT等性的マイノリティに関するページを開設し、各種研修の実施など社員の理解促進と施策の推進を図ってきました。2018年からは各種制度の同性パートナーへの適用拡大を行い、またNTTグループが参加する社会イベント「東京レインボープライド」のパレードに参加するなど、さまざまな活動に取り組んでいます。このような活動が評価され、任意団体work with Pride*による評価指標「PRIDE指標」では、5つの指標のうち5点満点を獲得し、ゴールドを受賞しました。

* work with Pride: 企業などの団体において、LGBT、すなわちレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーなどの性的マイノリティに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体

活動ハイライト ② 女性活躍推進

「WAVE」を通じた積極的な取り組み

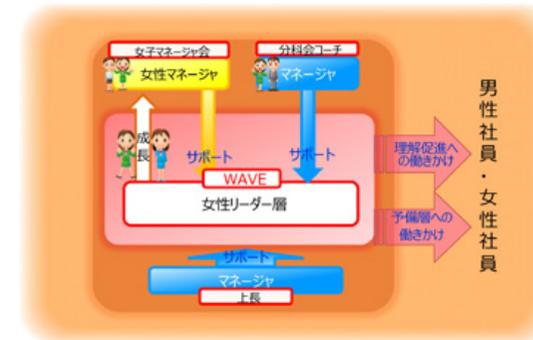
NTTコムウェアグループはかねてより2020年度女性管理者比率6.0%を掲げ、その推進の一環として女性活躍推進ネットワーク「WAVE」*活動を実施しています。

WAVEのメンバーは各職場のリーダー層（管理職一步手前の女性社員）を中心に構成され、自ら周囲を巻き込みながら活動することで自己のキャリアアップの実現と同時に女性が生き生きと活躍できる職場環境づくりに貢献することを目的に活動を行っています。

2018年度は「介護と仕事の両立セミナー」の開催や、メンバーが選んだ生き生きと活躍している部長や取締役役に「働きがい」についてインタビューを行い社内イントラに発信するなど、積極的に活動を展開しました。このような活動が評価され、「女性活躍推進法」に基づく5つの指標をすべて満たし、女性の活躍に関する取り組みの実施状況が優良な企業として厚生労働大臣による「えるぼし★★★」の認定を受けました。

* Woman Action Variety Enjoyの略。女性の視点でさまざまなアイデアを出しつつ楽しく行動し、周囲を巻き込んで波を起こそうという想いを込めたネーミング

WAVEの仕組みと活動の様子



2018年度の目標および実績

2017年度より、従来の活動とその成果を踏まえ、新・活動目標に取り組んでいます。
NTTグループの一員として、サステナブルな社会へと貢献し続けます。

重点活動項目	2018年度CSR定量指標・目標	2018年度実績
I. 人と社会のコミュニケーション		
ICTを通じた社会への貢献	●「2020」「地方創生」に関する新サービス提供件数(実績把握)	●サービス提供件数: 3件(うち継続2件)
ICTアクセスの向上	●ユニバーサルデザイン・サービス提供件数(実績把握)	●サービス提供件数: 3件(継続)
	●海外案件に関する活動(実績把握)	●主にNTTグループを通じたグローバルビジネスへの貢献額: 11億円
お客さま満足の追求	●効率的な事業運営に向けたコスト削減貢献額: 325億円	●効率的な事業運営に向けたコスト削減貢献額: 329億円
II. 人と地球のコミュニケーション		
ICTの利活用による環境への貢献	●電力使用量: 124.0百万kWh以下(▲12.0百万kWh以上)	●電力使用量: 114.6百万kWh(▲13.0百万kWh)
事業上の環境負荷低減	●紙購入数: 5,107箱以下(前年比▲5%) ●社員1人あたり使用量: 1,035枚以下	●紙購入数: 4,877箱(▲9.37%) ●社員1人あたり使用量: 837枚
資源の有効活用	●廃棄物リサイクル率: 99%以上	●廃棄物リサイクル率: 99.91%
III. 安心・安全なコミュニケーション		
個人情報保護	●個人情報の漏えい件数: 0件	●個人情報の漏えい件数: 0件
情報セキュリティの強化	●セキュリティ人材の確保(実績把握)	●上級レベル: 1名/中級レベル: 290名/初級レベル: 1,812名
通信サービスの安定性と信頼性の確保	●災害対策訓練の実施	●コムウェア災害対策訓練実施(2018.11.1)
IV. チームNTTのコミュニケーション		
ダイバーシティの推進	●女性管理者比率: 実績把握 ※2020年度6.0%に向けた育成などの実施	●女性管理者比率: 5.47%[2019.4.1現在]
	●障がい者雇用ゼロ企業: 0社(45.5名以上の会社) ●障がい者法定雇用率: 2.2%以上	●障がい者雇用ゼロ企業: 0社 ●障がい者雇用率[2018.6.1時点]: NTTコムウェア2.29%、NTTインターネット1.95%
人権の尊重	●人権に関する違反件数: 0件	●人権に関する違反件数: 0件
	●人権に関する研修受講率: 100%	●人権に関する研修受講率: 100%
バリューチェーン・マネジメントの強化	●確認された高リスクサプライヤー件数: 0件	●確認された高リスクサプライヤー件数: 0件
安全・健康・福祉の推進と評価	●労働災害事故発生件数(休業): 0件	●労働災害事故発生件数(休業): 1件
	●特定保健指導完了率: 25%	●特定保健指導完了率: 73.9%
魅力ある職場の実現	●従業員満足度: 前年度(3.88点)以上	●従業員満足度: 3.94点
グループ丸となった社会貢献活動の推進	●参加率: 30%以上 ●延べ参加回数: 2回/名以上	●参加率: 33.6% ●延べ参加回数: 3.56回/名

2019年度CSR定量指標・目標については詳細版に掲載しています。あわせてご覧ください。

NTTコムウェアグループについて

NTTコムウェアは、日本の通信インフラを支え、人びとの暮らしを変えていきたいという想いを胸に、お客さまに最適なソリューションを提供してきました。システムインテグレーターを超え、ビジネスインテグレーターへ。私たちは品質と信頼性を追求し、お客さまとともに考え、動き、真のパートナーとして新たなビジネス価値を「協創」していきます。



NTTコムウェア・ビジョン(2017年改定)

NTTコムウェア・アイデンティティ

NTTコムウェアは品質と信頼性を追求し、お客さまとのビジネス価値の協創を通じて、豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献します。

コーポレートメッセージ

心をつなぐ、社会をつなぐ

行動指針

お客さまの持続的な発展と新たなビジネスの価値創造のために、お客さまとともに考え、ともに行動します。

企業価値向上のために、プロフェッショナルを目指します・育てます。

多様性を尊重し、社会の発展と安定のために社会の一員としての役割を果たし、ルールを守ります。

最高のチームパフォーマンスのために、“わかっているけど誰もやっていない仕事”に進んで取り組みます。

自分の夢を実現するために、自らの可能性を信じ、〇〇し続けます。

企業概要

社名	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 (略称：NTTコムウェア)
本社所在地	〒108-8019 東京都港区港南1-9-1 NTT品川TWINsアネックスビル
資本金	200億円
株主	日本電信電話株式会社
創業	1997年9月1日

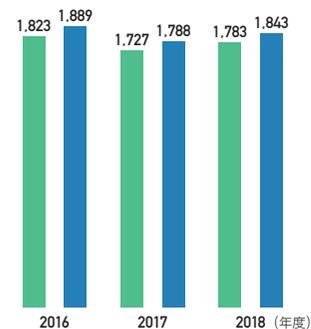
グループ会社

エヌ・ティ・ティ・インターネット株式会社
 コムウェア・ファイナンシャル・システムズ株式会社

企業データ

売上高

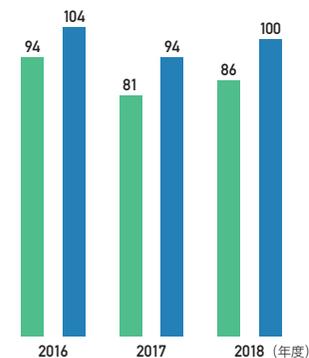
(億円)



■ NTTコムウェア(単独)
 ■ NTTコムウェアグループ

営業利益

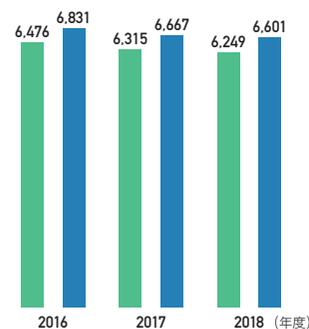
(億円)



■ NTTコムウェア(単独)
 ■ NTTコムウェアグループ

社員数

(人)



■ NTTコムウェア(単独)
 ■ NTTコムウェアグループ

編集にあたって

NTTコムウェアグループは、2007年度より「NTTコムウェアグループCSR報告書」を発行し、CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)活動の状況を皆さまにお伝えしています。2019年版は2013年版から引き続き、社会に対する影響が大きくかつNTTコムウェアグループにとっても重要度の高いテーマを中心にハイライト版としてまとめ、より詳細な情報として詳細版を発行しています。

なお、報告内容の整理にあたっては、NTTグループ全体のCSR活動との調和を図るため、NTTグループCSR憲章を参照しています。

ステークホルダーの皆さまとの活発なコミュニケーションが生まれるよう、NTTコムウェアグループのCSR活動をわかりやすくご報告しています。

URL: <https://www.nttcom.co.jp/csr/>

報告対象組織

原則として、NTTコムウェアグループ全体の取り組みについて報告しています。なお、NTTコムウェア単独または各グループ会社の取り組みについて報告している箇所では、それぞれの名称をあげています。

報告対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日
 (一部、2019年4月以降の取り組みについても報告しています。)

参考ガイドライン

グローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)「GRIスタンダード」

発行時期

2019年11月(前回発行2018年11月)

- * 人名、団体名、公共機関名などは原則として敬称を略しています。
- * その他、記載されている会社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。

お問い合わせ窓口

NTTコムウェア株式会社
 総務人事部 CSR推進室
 〒108-8019 東京都港区港南1-9-1
 NTT品川TWINsアネックスビル
 Tel: 03-5463-5756
 Fax: 03-5479-9218
 E-mail: csr@nttcom.co.jp



エコICTマーク

「エコICTマーク」とは、ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会が定めるシンボルマークです。電気通信事業者が適切にCO₂排出削減の取り組みを自己評価し、その取り組み状況に応じて「エコICTマーク」を表示し、適切に活動していることを広く公表することができます。

NTTコムウェアは、電気通信事業に関わる企業としてCO₂削減に取り組んでまいります。

